
健やかにあれ

水戸市・宮内歯科医院 勤務医 宮内 秀人



その犬(ベルちゃん♀)が来てからやっと落ち着き始めた私の生活は一変してしまった。手のかかる子犬の時期なので、趣味のゴルフや船釣り、クレー射撃には行かなくなり、仕事の前後の時間は散歩に連れていく必要がある。

全く持って可愛いのだ。

しかし、運動量がある犬種が故に6月に左後足の靭帯が断裂してしまい、人工靭帯の移植術を受けることになった。寝食を共にしている相棒が足を引き摺りながらしょんぼりと落ち込んでいる顔は、今思い出しても胸が張り裂けそうである。

少し話が変わるが私は、茨城県猟友会の会員でもあるため、猟期中は筑波山を根城にするイノシシから畑を守ったり、北海道・帯広のシカ駆除に参加したりしている。

そのツテもあり、今年の6月から六次産業としてジビエを利用したペットフードの会社を設立した。

昨年は変化の年であった。

高校卒業以来、およそ12年ぶりに地元である茨城県水戸市へとUターンをしたのだ。

これを機に、結婚・住宅購入・結婚式の日程調整などが週に一度の休みを容赦無く奪い去っていく。大学時代はアメフト部とゴルフ部に所属しながら釣りやキャンプを行うほど屋外にすることが好きな自分には非常に苦痛であった。今年からはもっと遊べるぞ!と思った矢先、とんでもないことが起こった。

妻が子犬を連れてきたのだ。

私は無類の動物好きなのである。幼少期の頃は何度犬猫を連れ帰って怒られたか数えきれない。去年、地元に戻ってきてからは近所にある実家のゴールデンレトリバーと猫2匹を愛でるのが癒しであった。

妻が連れてきた子犬は、こともあろうに生後3ヶ月のジャックラッセルテリアであった。

その名も「宮内ドックデンタルケア研究所」である。シカの角を利用し歯周組織に適度な刺激を与えたり、ジャーキーの繊維質によって清掃効果を狙った商品により愛犬の健康を食と歯から支えるのが目的である。お友達犬に配布する目的で大量に製造してあったジビエジャーキーは、手術によって食欲の落ちてしまった愛犬には効果観面なようで、瞬く間に在庫が底をついてしまった。

奇しくも自分の愛犬で、我が製品の食べっぷりを実感することになったのである。

しかし、様々な保存料や添加物が配合されている食品はジャンクフードやコンビニ弁当を食べ慣れている人間であっても病み上がりには食べたいとは思わないであろう。

我が愛犬よ、思う存分に食べよ。そして健やかにあれ。
